

「1強」議論深まらず

首相改憲「必ず私の手で」

安倍晋三首相は九日、臨時国会閉幕を受けて記者会見し、憲法改正について「必ずや私の手で成し遂げていきたい」と表明した。衆院解散を巡り「夏の参院選で約束したことの実行に集中している」と説明。来年四月の秋篠宮さまの「立皇嗣の礼」を踏まえ「即位に関わる儀式をつつがなく行った大きな責任を負っている」と述べ、来春までの解散に否定的な考えをにじませた。

政府、与党は来年の通常国会の召集日について一月二十日を軸に調整に入った。首相の自民党総裁任期が残り二年を切る中、安倍政権の下での改憲に改めて強い意欲を示した発言。首相

は「与野党の枠を超えて活発に議論し、令和の時代にふさわしい改憲原案の策定を加速させる」と強調した。「国のかたちに関わる大改革に挑戦し、新たな国造りを力強く進めていく。その先に憲法改正がある」とも述べた。

一方、衆院解散・総選挙に関しては「国民の信を問うべき時が来た」と考えれば、断行することはちゅうちょしない」とも語った。首相は会見で、イランのロウハニ大統領の訪日について「調整中だ」と認め、米、イラン両国と良好な関係にある日本として「地域の緊張緩和、情勢の安定化に向けて外交努力を尽くしたい」と言明した。

首相主催の「桜を見る会」の在り方を巡り、政府が進める全般的な見直しについて、自身の責任で行う考えを表明。招待者数が膨れ上がったことを反省するとした。

来春に予定する中国の習近平国家主席の国賓来日にも言及。中国公船による沖縄県・尖閣諸島周辺の領海侵入や、中国当局による日本人拘束事案で「しっかりと主張し、前向きな対応を強く求めていく」と強調した。

桜疑惑 首相対応おどろなり



臨時国会閉幕

臨時国会が閉幕した。安倍晋三首相は自ら主催した「桜を見る会」で噴出した疑惑に正面から向き合わず、おどろなりの対応に終始。議論継続を狙って野党が求めた会期延長を拒否し「言論の府」の機能不全ぶりが露呈した。「一強政治」の弊害を強く印象付ける一方、野党も疑惑追及が中心となり、社会保障制度

「日本経済が力強く成長を続ける強固な基盤を築き

改革をはじめ国民が直面する課題の政策論争は深まらなかった。

力づく



臨時国会の閉幕を受け、記者会見する安倍首相＝9日午後、首相官邸で

政府、与党は来年の通常国会の召集日について一月二十日を軸に調整に入った。首相の自民党総裁任期が残り二年を切る中、安倍政権の下での改憲に改めて強い意欲を示した発言。首相は「野党からおどろなりの対応を要する」と宣言。「一強のおどろりや緩み」があるとの批判を意識した姿勢をにじませているが、

十一月の参院予算委員会で疑惑が発覚した後は周回払いで立ちを見せ始めた。首相が後援会関係者を多数招待した点を直接たゞし問題点をあぶり出した野党に対し、与党は予算委集中審議のさらなる開催を拒んだ。名簿の廃棄など会期末に向けて疑惑は増す一方で、野党は「奪れも正月もなく審議したい」（国民民主党幹部）と会期の延長を要求。通常は与党が重要法案成立を目的に申し入れる延長を、与党が突っぱねる異例の展開となり、立憲民主党の安住淳国対委員長は記者団を前に「異い物にふたをする、力づくの閉会だ」と批判した。

首相がかねて相手は野党にとどまらなかつた。衆院は公選法違反疑惑を巡る二

六十七日間の今国会会期は公選法違反疑惑を巡る二

ついで、自身の責任で行う考えを表明。招待者数が膨れ上がったことを反省するとした。

来春に予定する中国の習近平国家主席の国賓来日にも言及。中国公船による沖縄県・尖閣諸島周辺の領海侵入や、中国当局による日本人拘束事案で「しっかりと主張し、前向きな対応を強く求めていく」と強調した。

閣僚の辞任に加えて、大学入学共通テストへの英語民間検定試験の導入先送り、桜を見る会と政権の「失点」が続いた。

衆院議員は任期の折り返しを過ぎ「常在戦場」の声は国会近辺で日増しに大きくなる。次期衆院選で政権奪取を狙う立民など野党にとって、政権批判は有権者に訴える格好の材料だ。

ただ「代償」もある。十月の消費税率引き上げと軽減税率の導入や、政権が重要課題に掲げる全世代型社会保障改革が脇に追いやられ「抜本的な大改革の議論がなされなかつた」（日本維新の会の馬場伸幸幹事長）との印象は拭えない。

公明党の山口那津男代表は九日の党会合で、臨時国会を「う振り返った。「野党は桜を見る会の追及に終始した感がある」